

經濟空間の研究方法としては結局漸進的な方法が正當と言へる。最小單元である Gemeinde が最小の「地域」として統計的に把握され、それが同時に最も狭い經濟景觀である限りに於て、Gemeinde の研究は必要である。こゝに「地域」と「空間」の研究に於ける共通の基礎が存在する。

以上 Kraus の經濟空間と經濟地域の概念に關する見解を簡單ではあるが述べてきた。要するに彼によれば政治的な境界によつて圍まれた經濟地域はそうした拘束から離れた經濟空間に對して本質的な差異を有するのであつて、經濟地理學の研究對象としては少くともそれが地理學的に纏つて居らぬ場合に於ては適當でないとするのである。

併し乍ら B. Dietrich は經濟空間としての國家に經濟地域と云ふ新しい表現を與へることに反對して次の如く述べてゐる。何故ならば國家はその境界によつて一つの空間を抱括してゐる。

それは國家の見地から單一の經濟空間である。經濟地理學者は個々の經濟景觀に於ける各部分を經濟空間としての國家の經濟的な構造として把握することによつて、かゝる事實を始めて正當に扱ひ得るのである。

註 (1) Geographische Zeitschrift 1933 の新刊紹介の項に於て Dietrich は述べてゐる。

もとより政治的な境界によつて圍まれた土地を經濟地域なる名の下に經濟空間から區別することは尙問題である。併し實際研究に於て政治的單元が地理的地域と一致せぬことは屢起することであり、Kraus の主張もさうした點で意義があると思はれる。(昭和九年七月卅一日)

御多忙な時間を割いて本稿を御校閲下さつた小牧先生に厚く感謝の意を表する。

新著紹介

○大塚地理學會論文集 第三輯 菊版二九六頁

古今書院發行 八月 定價二圓五〇錢

曩に本論文集第二輯下を江湖に送つた大塚地理學會は矢繼

早に其の續巻を盛裝して新刊した。收められた論文は次の十一篇で人口地理、交通地理、産業地理に關する力作を主としてゐる。本論文集と地理論叢とは當今地理研究論者の東西の双壁であつて秋夜熟讀して地理學の新しい動向と其の研究方法を學ぶに最も適した大集成であることに誰も異存を挟まないであらう。著者と論題とを擧げると次の如くである。(S)

武見芳二 我が巨人都市の吸引人口

田中啓爾 北上川流域に於ける鹽及魚の移入路

平尾 貢 岡山平野の地誌學的研究

榊田一二 濟州島の畜産に就ての地理學的研究

三野與吉 阿武隈高原の一部、夏井川附近に於ける平坦面に就いて

吉村信吉 日本内地の内灣の沿岸漁獲物による標式——綜合海洋學的研究第一報

青野壽郎 房總半島西岸漁村の水産地理學的研究(第一報)

岩崎健吉 紀伊半島沿岸に於ける農業景觀の地域性上より見たる梅園及桑園に就いて

牛山 喜 大都市乗車交通論より觀たる東京市地域性の耕地の區劃細分の傾向について(東京府下宮下の例)

鹿又義英 生産・交易・消費人口の構成から觀たる本邦都市の研究

○日本人口密度圖

人口問題研究會編 人口密度圖三葉

例言及表 菊倍版一冊五十五〇頁 東京刀江書院發行

七月 定價二圓五〇錢

郷土地理學者小田内通敏氏の立案に基いて内務省社會局内にある財團法人口問題研究會が編纂した下記三種の日本内地人口密度圖に道府縣別市並郡別町及村人口密度表と日本人口密度圖對照表とを擧げたものである。本密度圖は縮尺二百七十萬分の一で誠に手頃である。其の據る所の人口統計は昭和五年の國勢調査の結果である。三種の密度圖といふのは(一)道府縣別市並郡別町人口密度圖、(二)道府縣別對耕地人口密度圖及び(三)道府縣別市並町人口密度圖である。(一)では郡又は支廳別に、村の總面積に對する村の總人口の密度を九階級に分けて色で鮮明に表はしてある。(例言の第二頁には第一圖に於ける村の人口密度階級を七つに分けた様に書いてあるのは例言者の階級分けに餘り興味を持ち合はさぬことを示してゐる。)(二)は矢張り郡、支廳別に耕地の總面積に對する村の總人口の密度を十二階級に分つて色分けしてある。村の生産が耕地にのみ依據して居るわけではないからこゝに出來上つた分布圖には實際集約農法の行はれてゐる郡が濃く塗られると同時に耕地が少なくて林業などが盛んな奈良縣吉野郡などが密度が高くなる。この點で本密度圖が却つて人文地理學專攻家の資料となることは勿怪の幸である。(三)は町の人口密度を郡、支廳別に、市の人口密度を赤〇印で共に七階級にして示したものである。以上の三密度圖は共に地圖面の廣さを

無視したもので色別で表はされた面積にはまるで關係のないものである。凡そ分布圖には二種類あつて地圖上に墨星で或る會社の出張所の分布を示したものと地質圖の様に岩類の廣がりを如實に示したものとある。本密度圖の密度を計算したまでは廣さには關係があるが之を圖上にさきも面積に關係がある様に塗る段となると面積の考が消え失せた上記の會社出張所分布圖と同類になつて居ることは注意せねばならぬ點である。我々平の地學愛好者に取つては普通の郡別人口密度圖も一葉入れて欲しかつた。(S)

○長久保赤水

杉田雨人著 水戸川又書店發行

定價一圓五十錢

著者杉田氏は野州茂木の人三十年來水戸に住んでゐられる實業家であるが、明治三十年郷里で父の文庫から赤水先生の萬國圖と日本地圖とを發見して趣味をもちはじめ爾來實業に従事する餘暇に赤水一代の歴史其生ひ立ちから交友、學問、業績一切にわたる事實をしらべあげて遂にこの四六版二八一頁の冊子をつくられたのである、所謂本を作る人の述作でないから「赤水傳」といふやうな型になつてゐない、けれども諄々として赤水先生の一代を語り微に入り細を穿つ所まことに尋常人の及ぶ所ではない。

赤水は九歳にして母を失ひやがて十一歳にして父にわかれ繼母佐藤氏(二十八歳)の下に養はれた、ところがこの佐藤氏こそ實に賢婦人であつて、さまで裕でない農家に孤子を撫育

して、學にいそしむ所の赤水をもりたてた、家貧にして線香をたいて書をよむだが、さて讀書するといつても立派な本を買へるわけではなく、半里餘も隔てゝゐた鈴木玄淳に詩文の手ほどきをうけ、何かなしに農事をやりながら、獨學苦行に入つたといふことであつて、二十三歳にして妻、順を迎へてから二十五歳で長男が生れた、それからさき彌々學問に努力した、二十歳から三十歳までの修養、名越南溪に師事したといつても、僅かの間であつたから、眞に可驚き獨學力行の人をこの田舎に見たわけである、四十四歳にして東奥に旅行し五十一歳にして長崎に旅行した、安永七年に日本輿地路程全圖を出版したが安永六年には既に水戸の侍讀侍講として見出される程に其學問が大成してゐたのであつた、年既に六十歳になつてゐた筈である、天明三年に「大清廣輿圖」をつくつたが、面白いことは地圖の彩色に關して赤水の見識があつた、今本書からこれを採萃してみる、川水色を紺色に塗り候事大惡に御座候、川の水色は山上より遠望すれば、白地の如くに見へ申物に御座候、因て圖を彩色申すには川筋をば、薄あきぎ水色に彩色し申候、湖地などは眞中は藍色も宜しく候へ共、是も文字の細字もよく見え候やう薄青く可染候」とのべ蔡九霞の廣輿記圖本によつたことが明にせられ、大阪よりの献上の日本部分圖も随分念入り彩色は美事に候へ共川色の藍を濃く致候間大きに不宜」としてゐる。

筆者が地圖をつくり且之を印刷せしむるにあつて、彩色

に通ならぬ苦心を拂ふ經驗から見て、赤水のこの彩色の工夫が違ひ安永頃に、かやうに緻密であつたことを知り誠に傾聴すべき師父の語をきくやうな感がする、年若い學ますますすゝみ、七十、八十といふ壽を迎へた赤水の一代を學ぶに本書はこよなき參考を供する、獨り地理學の大家としてではなく、我等は赤水の一代から、いかに多くの學ぶべきものをうけとるであらうかと考へいひしれぬ憧憬を感じる。(藤田)

○中華民國新地圖

申報六十周年記念 丁文江等共編
定價銀二十五圓

本年四月二十日上海の申報館から發行されたもので、漢字地名索引が百八十頁ついてゐて、鐵路里程表の外に、羅馬字で國音をしるしたる表をつけた四六倍版五十三圖版の大アトラスである、支那で從來出版された民國地圖などに比べて、最も詳密を極めたもので全國の人文及地文詳圖の外に、交通圖、氣象圖、重要城市圖、礦產分布圖、農產分布圖等が加はつてゐる、我等はこの本をみて支那の印刷文化が最近頗る長足の進歩をしめたことに驚くものである、これを我國に比較して、日本國ではこれ丈けの大きで、これ丈けのインデックス付の興圖がまだ出現してゐないことを残念に思ふ、銀の相場が高いので、京都でこれを求めると三十三圓になるが支那を研究する人の必携の興圖であると思ふ。(藤田)

○滿洲國經濟地理圖說

川西正鑑著 刀江書院發行
定價六圓

最近に種々の著述を出して倦むことなき好學の著者川西氏は本月になつてこの地理圖說なるものを公刊された、著者は滿洲國新興の産業地理を語るために確實なる材料をあつめ之を圖說することに非常の努力を拂はれた、菊版倍大五五頁の大冊子であつて第一章に自然的狀件を略説して鮮明な地勢圖と地質圖を挿入し、風向から氣象圖にわたつて其要領を與へ太平洋航路圖によつて、滿洲の位置をつげ第二章文化狀件の概説には交通機關、鐵道網、通信線路圖、自動車路網をのべ、資本及人口狀態に入つて、人口密度圖、行政區劃圖をあげ、新しい經濟地區圖を録し、第二編では農業を主とし、可耕面積地圖の外に大豆、粟、高粱の耕作分布圖をあげ、滿蒙の家畜逐送地域圖をあげて畜産を論じ、森林面積區分圖をあげて、林業の開發をのべ、礦産に關して鹽田分布、石炭産地をしるして礦物分布圖を説明し、工業分布圖をのべて各種工業の發達と將來に及ぶ。前段に對外貿易の一章を置く、各章の説明は簡潔にして明快であり、すべての挿圖はいづれも確實明細である、かくて始めて眞に經濟地理圖說の名にふさはしいこの一本が出来た、八月三十日迄に申込む人には特價四圓五十錢で供給するといふ所に書肆の掛引がある、しかし滿洲に關心をもつものは獨り日本人のみではないのである、自からかうした多くの人の手数をかけた地圖が入つてゐる以上可成早く有識の人が之を見られんことを勸奨したい意味からこの特價提供には双手をあげて賛成するものである。(藤川)